友愛

第 149 号（2013）
〒733-0032 広島市西区東観音 8-10
NPO ワールド・フレンドシップ・センター
理事長：山根美智子　館長：Richard&Xinia Tobias
TEL（082）503-3191　FAX（082）503-3179
E-Mail:wfchiroshima@nifty.com
URL: http://www.wfchiroshima.net/
WFC blog: http://www.wfcpeace.blogspot.jp/

Breaking the Silence（BTS） とWFC平和使節団(PAX)

ニッキ・サダヨ・ノジマ・ルイス

（8 月 3 日 Breaking the silence 上演）

アメリカには「去る者日々に疎し」ということわざがあります。しかし、これは私にはあてはまりません。広島で過ごした時間と WFC のことは私の脳裏から消えることはないでしょう。広島から帰って以来 BTS と WFC のおかげで始まったこのような教育的機会は継続しなくてはいけないと感じていました。ニューメキシコに PAX チームが訪問したことはグローバルな文化交流を図らなければいけないという私の思いを強くしました。そして今私はその目標に向かって進んでいます。

藤井正一、田中健三、堀江壮、カイル、河野きよみ、森河伸子、小島悦子、尾崎美栄子、西田美知子、片岡清美子、車地かほり、今田洋子、石井晶子、阿波明子、そしてもちろんジョアンとラリーの皆さんはニューメキシコで一度に一人ではなくたくさんの友達を作られました。そのうえ、たくさんのファンも作りました。アルバカーキーでの 2 日間とサンタフェでの 1 日の間に 7 校でプレゼンテ

ーションをし、子供たちはPAXグループのメンバーが大好きになりました。ニューメキシコ大学がスポンサーとなり、フォーラムを企画し、Peace & Justice センターが、ポットラックパーティーを開き、100 人を超える生徒、先生、科学者や平和活動家が集まりました。参加者達は PAX メンバーが大好きになりました。メンバーたちの話、知識、また存在それ自体が私たちに多くを教え、喜びを与え、そして考えさせたのです。彼らはまた来てほしいと署名しました。その熱心さに私は圧倒されました。時間がなかったので、他の学校、教会、Balloon Museum までもその講演依頼を断らなくてはなりませんでした。PAX メンバーは私たちの平和活動に刺激と力を与えてくれました。みんな再び来てもらいたいと望んでいます。私は再度呼ぶ計画を立てると約束しました。

PAX チームが到着する二日前、手伝いをしてくれるためにシアトルからキムが、ポートランドからチサオがアルバカーキーに駆けつけてきてくれました。ホームステイ受け入れの家庭と連絡を取り、学校、教会と話し合い、プレゼンテーションを振り分け、車の手配をし、お土産を購入し、責任者たちと会いました。ハーブ、キムそして私は PAX メンバーとホームステイ先のホストたちのための歓迎昼食会を開催し、メアリー・オオイシは Peace & Justice センターでのポットラックタ食を受け持ちました。翌日、サンタフェまで車で行きそこで PAX チームは平和活動家たちと会い、ロスアラモスを訪れました。また、サンタフェ収容所では花を手向けました。私の父を含め日系一世が第二次世界大戦中収容された場所です。私はニューメキシコ大学の学部長にわが校と広島の大学との交換プログラムを提案する報告書を送りました。私が広島に再び行くための助成金と資金集めの申請書を書いています。この計画を実行するよう努め、また連絡いたします。

メアリー・オオイシは広島に行ったことで人生が変わったと言いました。一行のほかの人たちも同じように感じています。私にとって広島は、今年の8月に始まり10月の PAX チームの訪問で深まった関係の継続を象徴しています。BTS を広島に呼ぶよう働きかけた開拓者精神は強い感染力を持っていました。私はその「やればできる」精神に感染し、それを今ほかのみんなにうつしています。日本人と日系アメリカ人とのつながりは絹のように強く太平洋をこえて結ばれています。お互いに与えるべき多くのことがあり学ぶべき多くのものがあります。そして私はこの進行中の冒険の一端を担っていることを嬉しく思います。

シアトルに帰る飛行機の中でキムとハーブは偶然、核科学者の夫を持つ女性の隣に乗り合わせました。その人はたまたま堀江壮さんのラジオインタビューを聞き、次回の PAX 訪問の際にボランティアをやりたいと言っていました。そしてキムに自分の名前とメールアドレスを渡したのです。出会うたびに一人友達を作る。

連絡を絶やさないようにしましょう。私からの返事は届くのが遅れるかもしれませんが、それは再び皆さんと会うために一生懸命がんばっているからです。

（流川教会にて One World Peace Concert）

ハーブさんからのメッセージ

ハーブ・ツチヤ

私の身体はシアトルにいますが、私の心は、私の BFF（Best Friends Forever）「永遠の友」である WFC の皆様と共に広島にいます。皆様のことが大好きで懐かしく思い出されます。
“Futatabi issho ni naru tai desu”が私の望みです。もし叶うものなら来年にでも。
“Breaking the Silence” 上演のためキャストや団員としてアメリカから訪れた私たちを、皆様はとても温かく優しく迎えてくださり感激でした。とても感謝しています。私たちは色々な場所に案内され、美味しい料理をいただきました。私たちは語り、笑い、人とつながりました。一生忘れられない多くの楽しい思い出となりました。広島に招待していただいて本当にありがとうございました。美しい秋の紅葉 (momiji)や金色の銀杏の葉を見て、皆様が私たちと一緒に楽しんだ日のことを思い出していただければ幸いです。
God Bless, ja mata, saraba ja, Herb Minoru Tsuchiya, 81, “jordan sensei”

マイク・スターンさんからのメッセージ

マイク・スターン

2012 年 4 月に初めて来日してから間もない 2013 年に、また新しい友人のもとを再訪することになろうとは思いませんでした。私と妻のキャロルは、BTS の他のキャストと一緒に、WFC の優しく献身的で魅力的なボランティアの皆様によって歓待を受けました。

2013 年 8 月 5 日広島流川教会での 2 度目の One World Peace Concert で、また BTS 上演の前のミニコンサートで歌うことができたのは、とりわけ光栄なことでした。私は幅広く世界の平和を愛する人々に私の音楽を届けたいと常に思っていますが、特に8・6の式典がある週に広島で歌うこと、そしてヒロシマのために作曲した“As If the Flowers Knew”を歌うことは意義深いことでした。

この演奏旅行を実現するために尽力された皆様に深く感謝します。将来またピース・コンサートができればと願っています。これからも頑張ってください。www.mikesongs.net

（マイク・スターンとチサオ・ハタ、流川教会にて One World Peace Concert）

WFC 平和使節団の概要について

WFC 理事　藤井正一

旅行期間:2013 年 9 月 14 日(土)～10 月 5 日(土)
訪問団人数:16 名(女性 12 名、男性 4 名)
阿波明子,石井晶子,今田洋子,尾崎美栄子,車地かほり,小泉直子,片岡喜美子,河野きよみ,小島悦子,田中健三,西田美知子,浜井道子,堀江壮,藤井正一,森河伸子,Ron Klein
団長:藤井正一
副団長:車地かほり
会計:石井晶子、田中健三
旅程(主要な見学地と訪問地の交流イベント)
9 月 14 日(土)
16:35　関西空港発(デルタ航空 182)
10:50　シアトル空港着(時差:19　時間)ラリーとジョアン、シアトル広島クラブのウエダ会長などの熱烈な歓迎をうける
9 月 15 日(日)
日本人バプテスト教会(シアトル)出発
化石した銀杏の森(ワシントン州)、
ツインフォールズ(アイダホ州)、ワナプム水力発電所(オレゴン州)などを見学した。

(タッチストーン学校保育園にて、浜井道子さん)

9 月 16 日(月)
8:00　ハンフォード(ワシントン州)に到着。マンハッタン計画で長崎原爆のプルトニウムを製造したB原子炉跡を見学。専門家から丁寧な説明を受ける。
9 月 17 日(火)
12:00　ミニドカ日系人強制収容所跡(アイダホ州)に到着。日系アメリカ人約１２万人が３年半収容された場所を見学。ジニー・ジアックスさん(国立公園局の管理者)に案内していただく。

(ワシントン州、ハンフォード B 原子炉跡)

9 月 18 日(水)
オレゴン州ポートランドのファーストバプテスト教会に到着。ホストファミリーと面会。リンフィールド大学、ファーストバプテスト教会で発表し、意見交換。
9 月 19 日(木)～23 日(月)

ポートランド地域で平和交流。ニューグバーグ、マックミンビル、セーレム（オレゴン州都）、リンカン市の保育園、小学校、高校、大学及び地域文化センターなどで「私の被爆体験」、「人体に対する放射能の影響」、「私の母の話と中本マサコ博士の原爆体験」「はだしのゲン・中沢啓二」「原爆砂漠から現在の広島（広島復興の歴史）」「被爆した柳が私に命と希望を与えてくれた」、「私の母の原爆体験」「被爆者物語」、「私はその日を忘れない」、「広島の家（フロイド・シュモーの貢献）」「福島原発からみえてきたこと」、「戦争に翻弄された家族」、「広島−過去と現在」に加えて、琴演奏(尾崎美栄子)もあり、平和交流は予想以上の成果を挙げた。

交流行事として、ホストファミリーとの交流パーティー（シムズ宅）、ファースト・バプテスト教会で信者との交流パーティー。

9 月 24 日（火）

マックミンビル→セント・ヘレンズ火山見学→シアトル(ワシントン州)

9 月 25 日（水）

午前:シアトル市役所訪問し、ダリル・スミス副市長に広島市長のメッセージを手渡し、ワシントン大学でスティーブ・スミダ教授の演劇クラスを見学し、昼食を御馳走になる。

午後:がんセンターで放射能影響の研究成果を聞く。夕刻:日本バプテスト教会の歓迎夕食会で交流を深める。

9 月 26 日（木）

レーニア山旅行（希望者のみ）。カスケード山脈の一部で、日本の最高峰富士山と同じ成層火山で「タコマ富士」と呼ばれる。

（地図の引用；The National Atlas of the United States of America®）

9 月 27 日（金）

シアトルのピース・パークにあるサダコ像に千羽鶴を捧げる。シアトル・ヒロシマ・クラブ主催の歓迎交流会（日本文化センター）で竹の子ご飯など和食が準備され、心温かい交流が行われた。

9 月 28 日（土）

シアトル港からフェリーでベインブリッジ島訪問。日系人 227 人が強制退去され、マンザナ収容所に転住。その記念碑があり、氏名が記録されている。日本山妙法寺を訪問し、交流をする。米国海軍潜水艦基地があり、平和運動のひとつの拠点になっている。

9 月 29 日（日）

シアトル→ミネアポリス→アルバカーキ（ニューメキシコ州）（時差1時間）に移動。

9 月 30 日（月）

アルバカーキにてセントラル・ニューメキシコ・コミュニティー大学で発表後、ポットラック歓迎夕食

会（主催:平和と正義の会）。パネルディスカッションと合唱演奏。
10 月 1 日（火）
アルバカーキーとサンタフェの学校で発表。午後インディアン芸術文化博物館見学後、ポットラック歓迎夕食会でグループに分かれて情報交換する。ホームステイ（サンタフェ）
10 月 2 日（水）
サンタフェにて。
午前:フランク・オリチス公園にある日系人収容所跡の記念碑でニッキが独唱。平和使節団関係者が献花。ろうそくに火をつけて死没者のご冥福と平和への祈りを行う。日系アメリカ人男性約 4,500 名（教師、教会牧師、地域指導者、ビジネスマン、漁船所有者など）が強制収容された。
ロスアラモスまで長距離移動して、広島原爆製造地の記念碑に、持参した千羽鶴を捧げて、全員で平和の実現を祈願する。
夕刻、送別夕食会で 3 週間のもてなしと交流行事の大成功に感謝を述べる。
10 月 3 日（木）
アルバカーキ→ソルトレイクシテイ→シアトルに移動。
10 月 4 日（金）
シアトル空港でラリー、ジョアン、カイル、キャロル、ゲイル、ウエダ会長（シアトル広島クラブ）と最後の別れをし、再会を誓う。
10 月 5 日（土）
午後 2 時 50 分　関西空港着。

（シアトル空港にて）

（評　価）

1）　ラリーとジョアン（全旅程連絡調整及びオレゴン州部分でのコーディネーター）、キャロル・スターン（ワシントン州部分でのコーディネーター）、ニッキ教授（ニューメキシコ州でのコーディネーター)たちの献身的な活動で各学校、大学、地域社会からの依頼の全ては受け入れできないほどの大盛況でした。ホームステイでの交流も思い出深いものになりました。

2）　ハンフォード(長崎に落とされた原爆を製造した原子炉跡)、ミニドカ日系米人収容所跡、ベインブリッジ島(日系人 227 人が強制退去された島)、サンタフェで日系アメリカ人(男性だけ 4555 人)の収容所記念碑、ロスアラモスにある広島に落とされた原爆を製造した場所と実験場を訪問した研修旅行は大きな収穫でした。

3）　ラリーとジョアンに 40 年間にわたる WFC の活動を各地で紹介していただき、今後の平和交流の発展が期待できます。

4）　各地ですばらしい米国人との出会いがあり、交流も深まりました。

（課　題）

1）　受け入れ側の体制を考慮すると人数は 8 人以内にすべきで、PAX 派遣も 2015 年の WFC50 周年式典後に検討する。

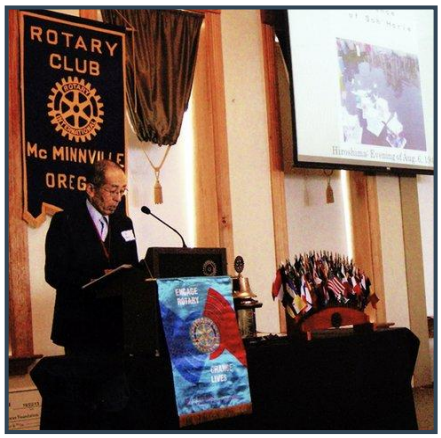
2）　被爆体験ばかりでなく、広島原爆投下の理由とその後の平和への取り組みや、広島と福島においての放射能の脅威について比較して発表するなどのバランスのとれた構成が望ましい。

PAX2013に参加して

堀江　壮

まず最初に、参加希望者 16 人全員を受け入れるため奔走頂いたシムズさんご一家、とりわけ、ジョアンさんに心からの御礼を申し上げます。また病後の私に常に気づかっていただいた参加者の皆様に感謝いたします。私は 7 年前と今回で 2 回 PAX に参加し、前回と比べ移動距離が圧倒的に長く、見せていただいた場所も被爆者として感慨深いものがありました。

米国の空港でのセキュリティチェックは前回よりさらに厳しくまるで被疑者あつかいで　第一印象はよくありませんでした。しかし、どこに行っても笑顔に満ちた歓迎と心あたたまるおもてなしを頂き、8 月にブレイキング・ザ・サイレンスでお越しになった方々には特にお世話になりありがとうございました。



（オレゴン州マックミンビルの
ロータリークラブにて）

今回は自分自身の被爆体験に加えて、フクシマの問題を、それに小学生には地球温暖化問題から戦争反対を訴えました。山根さんに翻訳していただいた母の短歌は、私自身のおぼつかない記憶よりもはるかにインパクトがあったようです。私が日本語で読んだ後、ジョアンさんとカイルさんに英語で読んでいただき、それを聞いた人に中に「申し訳ないことをした」と謝られた方もいました。藤井団長のご提案で、調味料、乾燥味噌汁、ソウメンを持参しました。特にハーブさん宅では、買い出しに行って 13 人分のスキヤキパーティーをして喜んでいただきました。

当時 ABCC は日本人をモルモット扱いし、検査はしたが治療はしませんでした。米国では今もなお日本の被爆者は放射能の人体に対する影響を調べる絶好の研究対象とされております。米国に

も被爆者はたくさんいる筈ですが研究対象にはされていません。米国は核兵器の数は削減しつつあるのでは？と思っていましたが、まだ、新たな核兵器開発のために 3 つの研究所に膨大な予算をつぎ込んで進めていることも知り驚きました。

メアリー・オオイシさんのお骨折りで Paul Ingles 氏からインタビューを受け,それが実際に放送されたのを聞くことができたのもまたとない貴重な体験でした。彼から受けた質問の主なものは次のとおりです。

・なぜ広島と長崎に原爆が投下されたと思うか？
・原爆投下は必要だったと思うか？
・退役軍人の中には原爆投下はやむおえなかったと考える人たちがいるが、どう思うか？
・広島の被爆者として米国の人たちに何を一番伝えたいか？

反省点：16 人もの参加人数は移動・宿泊・意見の調整やその他多くの点で多すぎました。今後は大きな車1台に乗れる5～6人までが適当かと思います。それと、次回は米国からのPAXをお迎えするので、平和への思いをお話しいただける場所・機会の確保を考えておく必要があります。今回お世話になった米国の方々や、次回米国 PAX メンバーが来広の折には精一杯歓迎させていただきたいと思います。

（シアトル、ピース・パークのサダコ像を前にして）

（モンテ・デル・ソル・チャータースクールにて、サンタフェ）

2013 年アメリカ PAX に参加して

河野きよみ

（オレゴン州、シェルダン日本語学校にて）

9 月 14 日から 10 月 5 日まで、3 週間のアメリカ PAX の旅に参加し、高齢の私は、皆様に大変お世話になりました事を深く感謝し、お礼を申し上げます。出発前には、体調などを危惧することもありましたが、運を天に任せての旅立ちでした。前館長ラリー＆ジョアン夫妻にはこの長い旅を企画し、常に全員の傍らで寄り添って細かく気配りをして頂きました。ご夫妻には、お礼の言葉も見つかりません。大変有り難うございました。広範囲にわたるプログラムでした。ご夫妻の学識と人脈、人徳なくしては出来ないことだったと感服しております。

私は 82 歳になって初めてのホームステイを体験しました。4軒のお宅でお世話になりました。皆様には、優しく接して頂き、お礼を申し上げると「泊まってもらったことを光栄に思っている」と言われ、アメリカの人達の懐の広さを感じ、心にゆとりのない自分を恥ずかしく思いました。教会関係の方々には色々とご配慮頂いて、有り難うございました。また日系の広島県人会の皆様にも大変お世話になりました。皆様が、アメリカで立派に生きて下さっている事を嬉しく誇りに思いました。元館長のロン＆バーブ夫妻にもお会いしました。オレゴンでは、以前広島で私の証言を聞いていただいた大学院生マッヒューや高校生のロージィに再会したことも、嬉しい事でした。が、なんといっても、ハンフォードの核施設やロスアラモスを訪れたことは、大変に衝撃的でした。ここが、人類史上悲劇の元凶だと思うと体が震えました。つくづくと残酷な歴史を思い、もはや人類は後には戻れないのかと哀しくなりました。ミニドカの日系人強制収容所跡地でも、私の亡き伯母がカリフォルニアにいて、キャンプに収容されたと聞いていましたので、思い出し涙があふれました。またオレゴン州セーラムの大理石の議事堂の素晴らしさ、高校、大学や教会でのプレゼンテーション、出会った多くの人達、話し終わった後で、涙を流しながら、何度も頬にキスしてくれたロージィの祖母やその

家族「お話を聞いたことは、僕の人生で一番良かった」と言ってくれた男子学生「アメリカはひどいことをした、許して下さい」と涙を流した女子学生。その他多くの人々との出会いの一つ一つが鮮やかに浮かんできます。セントヘレンズ山、フレッドハッチンソン(癌研究センター)、シアトルのサダコ像、百両編成の貨物列車、広大な大地、コロンビア川の流れ、ニューメキシコの太陽の眩しさ、アルバカーキの夜空に息をのむように美しかった銀河や大きな星，みんな懐かしい思い出となりました。

最後に、この旅行にあたり色々ご配慮頂いたワールド・フレンドシップ・センターの館長夫妻や理事長の山根様、理事の皆様に心からお礼を申し上げます。

（オレゴン州セーラムのウィラメット大学にて）

オットー・ハーンの孫、祖父について語る

WFC 館長　リチャード・トバイアス

核分裂を発見して 1944 年に化学部門でノーベル賞を授与されたオットー・ハーンのお孫さんとご一緒できたのは光栄でした。ディートリッヒ・ハーンさんは、9 月 30 日に来広し、祖父の生涯について講演しました。9 月 30 日(月)の夕方の広島大学での講演には、約 90 人が参加しました。彼は秋葉忠利前広島市長の招きで来広し、WFC もこの講演会を共催しました。

（ディートリッヒ・ハーンさんの歓迎会）

子供好きで謙虚な祖父は、世界平和と核廃絶を強く訴えていたとハーンさんは、言いました。また、広島と長崎に原爆が落とされたと聞いた時は、非常に落ち込んでいたことも伝えました。彼の核分裂の発見が、破壊のためではなく人類の発展のために利用されることを夢見ていました。ドイツが降伏した時は、ドイツ人科学者としてイギリスに拘束されていました。1945 年 8 月 6 日には英国にいました。アメリカが原爆を開発して使用したと聞いて、彼は酒浸りになりました。周りの人は、彼が自殺するのではないかとまで心配したそうです。

ディートリッヒ・ハーンさんは、1946 年に生まれました。彼の父親は、第 2 次大戦中はドイツ軍の将校としてロシア戦線で戦闘中に重傷を負いました。1960 年 14 歳の時に両親を亡くし、有名だった彼のおじいさんのオットー・ハーンと暮らすことになりました。アルバート・シュヴァイツァーやアルバート・アインシュタインやその他のノーベル賞受賞者の有名人と祖父は親しく付き合っていたと言っていました。広島と長崎への原爆投下は、不必要な犯罪行為で、どのような正当化も認めませんでした。

1988 年にディートリッヒさんは、祖父を追悼してオットー・ハーン平和メダル(賞)を設けました。平和活動家たちによる彼の委員会は、毎年 12 月 17 日に集まり次年度の受賞者を決定します。昨年の 12 月には、2013 年の受賞者を決めるのに 3 分半しかかかりませんでした。今までの最短記録でした。受賞したのは、平和と核廃絶のために努力した秋葉さんでした。
翌日の夕方、ハーンさんと WFC の山根美智子理事長と共に記者会見に臨みました。松井一實現市長ともお会いしました。その後、ハーンさんのために秋葉前市長が主催した夕食会に招待されました。

日本での初めての夏

WFC 館長　シーニア・ドバイアス

着任後、初めて過ごした広島の夏は忘れがたい経験となりました。リチャードと私が広島空港に降り立った時、三人の好意的な日本人男性が迎えてくれました。これが新しい冒険とすばらしい体験に満ちた広島での夏のはじまりでした。

この夏は朗読劇の「沈黙を破って」と「ワン・ワールド・ピース・コンサート」が計画されていて、私たちはとても忙しく過ごしました。WFC の会合で、ボランティアたちは、このような活動や広島市民と世界中の人々が集う

8 月 6 日の平和記念式典の行事などの計画についてと
ても熱心に打ち合わせをしました。
私はこれまで WFC　やその活動などについてはよく知りませんでした。すべての行事を計画するに当たっては少し不安でとまどいましたが、それぞれの委員会の方々が頑張っておられました。
WFC のボランテイアほど献身的で熱心に働く人々に今まで会ったことがありません。WFC の館長としてこのような人たちと一緒にこれからも仕事ができるのは嬉しい事です。

7 月 29 日に朗読劇「沈黙を破って」の出演者 8 人とマイク・スターンとその妻のキャロルがワシントン州シアトルから来広し、8 月 7 日まで WFC に滞在しました。朗読劇(BTS)は 8 月 1 日から 3 日間上演されました。8 月 5 日にマイク・スターンはピース・クワイアおよび日本の優れた音楽家のグループとともにコンサートを行いました。いずれも大成功でした。

8 月 6 日は WFC において朗読劇の配役のひとりで日系アメリカ人のハーブ・ツチヤ氏のアメリカの強制収容所で過ごされたときの体験談を聞く機会にめぐまれました。約 50 人のさまざまな年代の人達が彼の話を聞きに集まりました。その日は蒸し暑かったのですがみんな熱心に話を聞いていました。8 月 6 日以降は少し活動が減りましたが、世界中からの宿泊客は途絶えることなく、センターは満室でした。ゲスト迎えたり、広島の人々に接するのは大変嬉しいことです。日本での最初の夏を思い起こせば、このすばらしい使命「出会うたびに一人友達を作る」という機会を与えられたことを神に感謝します。

2013年度　ユース・ピース・キャンプ---中国にて

コーディネーター　ジム・ロナルド

最近日本と近隣諸国との関係は悪化していて、この先さらに悪化しそうな気配です。
詮索好きなメディアや内部告発者や異議を唱える声を統制しようとする特定秘密法案が新たに施

行されました。日本の若者が自国の過去を恥じないように、歴史教科書の検定を更に強める動きもあります。その上、日本の平和憲法を改正して、目障りな部分「平和」を取り除こうとする計画もあります。

このような時期には、北東アジア・ピース・キャンプが、まさに暗い夜空に小さくても明るく輝く星のように思えます。今年の第5回北東アジア・ピース・キャンプは 7 月 28 日から 8 月 4 日まで、中国南京で開催されました。残念ながら、キャンプに日本から参加したのは、私と 2 人の大学院生のカウンセラーの他には、中学生の坂田惟仁さんだけでした。私たちは皆中国に行くことに少し不安を感じました。日本では中国の大気汚染や政治や反日感情など悪いニュースばかりで、特に南京は、歴史上の重荷を抱えていたからです。これらのことが日本からの参加者に二の足を踏ませたかも知れません。それに南京は中国で最も暑い所として有名な上に、年間で最も暑い時期に訪問することになるのです。

それにもかかわらず、私たちの体験は全て有益なものでした。その街の緑が多く比較的涼しい植物園で行われたキャンプには、３２人の友好的で愉快な仲間たち（中国 18 人・韓国 10 人・日本 4 人）が参加し、素晴らしいキャンプになりました。私たちは毎日ほとんどの日程を、混成のチームで遊んだり、探検したり創作活動をして、国籍が違うことを忘れていました。思い込みを打破して平和を築く活動に毎日取り組み、お互いの文化を学び、友好を深めました。ゲームをしたり、スキットを演じたり、危険を冒したり、一緒に歌を歌ったりしました。そして最終日には、南京大虐殺資料館を訪問しました。

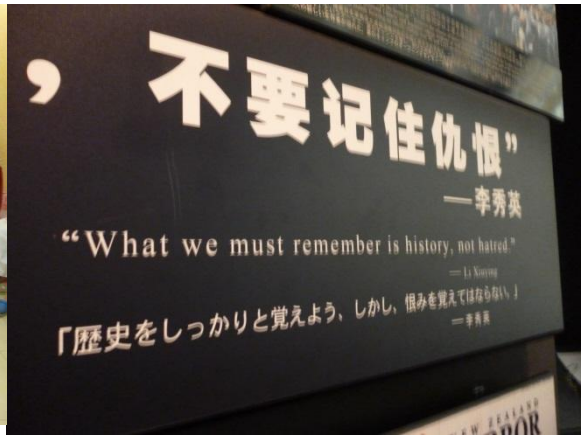
このレポートの最後を飾るには、日本からの 12 歳の参加者、坂田惟仁さんの感想文が最適でしょう。

東北アジア青少年ピースキャンプに参加して

坂田　惟仁

私は、今年の３月まで、広島に住んでいました。そこで去年広島で行われた、東北アジア青少年ピースキャンプに参加しました。日本と中国そして韓国の子どもたちが集まって、交流をしようというキャンプです。今年は、中国の南京で行われるということだったのですが、中学に入ったばかりで、部活の予定も分からなので、参加しないことにしていました。しかし、６月の終わり頃になって、スタッフの先生から連絡があり、日本からの参加者が少ないから、是非参加して欲しいということでした。急いでパスポートを取り、参加することにしました。
でも、前回は日本、それも私の住んでいた広島で行われたのに、今回は中国で行われるのです。しかも、生まれて初めての海外です。去年は一緒に参加していた姉たちが参加するわけではあり

ません。中国の南京と言うのは聞いたことがありましたが、実際どういうところかわかりませんでした。本当に勇気がいりました。日本からはスタッフさんは何人かがついてきて下さるのですが、最終的に、日本人の参加者は私１人になってしまいました。1 人になってしまった時点でスタッフさんから本当に行くのかとの連絡が入りましたが、1 度行くと決めた事なので、行くと答えました。でも不安はたくさんありました。きちんと交流が出来て、受け入れてもらえるのかとても心配でした。
行ってみると、中国から 13 人、韓国 6 人の参加で、日本からは私１人なのがちょっと恥ずかしかったです。
南京大虐殺資料館では日本がしてしまったことや、中国での被害について書いてありました。歴史の授業で日本がしてしまったことは知っていたけれど、こんなにひどいとは知りませんでした。もっと、日本も知っておくべきだと思いました。
ピースキャンプでの一つ一つのアクティビティーは、国を超えて力を合わせなくてはいけなくて、達成した時、みんなで喜びあうことができて、とても印象深かいものになりました。アクティビティーを通してスタッフさんの通訳なしでも、去年よりはできるようになった英語を話すことが出来て、直接、中国や、韓国の子どもたちと話すことができたので楽しかったです。
カルチャーナイトではそれぞれの国の音楽を聴きました。日本は「ありがとう」を歌いました。好評でした。韓国の子たちと一緒に歌いました。日本へ帰ってからも、「ありがとう」の詩を調べたというメールをもらったりして、うれしくなりました。
英語がスラスラいえるわけではなくぎこちなく、伝わったか心配な時もあったけれど、カウンセラーさんやルームメイトに支えてもらったおかげで中国を楽しむことが出来ました。スタッフさんたちが、日本からの参加者が増えるように考えてくれているようです。来年は、もっとたくさんの日本人の子どもが参加してくれればいいなと思いました。



WFC でのインターンシップ

広島修道大学英語英文学科　　野村知加

（前列左　野村知加、右　荊尾美保）

私はこの度、本当に貴重で、かけがえのない体験をさせて頂きました。まず英語に対する意識、それから自分の性格が変ったと思っています。私は WFC で働く前は非常に恥ずかしがりやで内向的な性格であり、英語にも自信がありませんでした。しかし、こちらで毎日英語を使って皆さんとお話させて頂いているうち、少しずつでしたが段々と臆さずに会話することができるようになっていきました。それは、私のつたない英語にゲストや WFC の皆さんが熱心に耳を傾けてくれたからだと思っています。おかげさまで今では頭の中で文章を構築することも、恥ずかしがることも、ほとんどありません。以前よりは言葉を出そうとする姿勢が身についたと思います。また、さまざまな活動に参加させて頂くにつれ、私はヒロシマ、原爆について全くわかっていないということを思い知らされました。シーニアさんやリチャードさんから教わることもあり、英語の勉強も大切ですが、ヒロシマについてもっと学ばなくてはならないと痛感しました。ある時、スイスのゲストと会話をさせていただいたとき、「ひな祭り」について説明しようとしたことがありました。しかし、飾る人形やその意味、起源などの詳しいことがわかっていませんでした。そのゲストは自国のスイスについてしっかり語られているにもかかわらず、自分はあいまいな知識のみでした。これでは文化交流になりません。これからは海外の文化に興味を持つことだけでなく、より一層自分の国についても知っていかなくてはならないと思います。

そして、私が一番強く感じたことは人と人との出会いとつながりの大切さでした。今まで述べたことは全て WFC の方々、そしてセンターに来たゲストたちとの出会いがあったからです。たった二週間ではありましたが、毎日が出会いと別れの連続で私の普段の生活では味わえない体験でした。出会う人たちは、みないつも明るい笑顔と真摯なまなざしで語りかけてくれ、まるで家族のような感覚でした。WFC の方々は、今でもメールを通じて色々な行事にお誘いしてくださいます。いきなり世界が広がったような気持ちでとても嬉しく思います。こちらで働かせていただくことができ、本当によかったと思っています。本当にありがとうございました。

インターンシップを終えて

広島修道大学人文学部英語英文科　　荊尾美保

（前列左　荊尾美保、右　野村知加）

私がインターンシップ先として WFC を選んだ第一の理由は、英語でコミュニケーションをとる機会が得られるからという理由でした。実習が始まり、いざ館長さんやゲストの方と英語でやりとりをするとなると緊張してしまい、初めは相槌などの返答しか出来ずにいました。しかし私が何か話そうと試みるといつも、私が何を伝えようとしているのかを理解しようと耳を傾けてくださるので、緊張も徐々にほぐれてきました。また英語が第二言語である館長さんとお話をしている中で、「英語が使えるようになるにはとにかく話して、話して、話してみることが一番だ」とおっしゃられた言葉が印象に残っており、改めて話すことを試みる事が大切なのだと実感しました。

次に、平和について考える機会が得られるからということが第二の理由でした。私は広島に住んでいるものの、原爆についてや、どのような平和活動が行われているかについては漠然とした知識しか持っていませんでした。しかし実習の中で被爆証言を聞き、平和公園の碑めぐりに参加することを通して、ヒロシマについての知識を得て、その経験を館長さんたちとシェアすることで平和への考えを深めることができました。一方身近なところでも、ゲストの方とお話しをすることでお互いの文化について学び、異文化を理解するということも平和への一歩であることに気が付くことができました。

このように多くのことを学ぶことができたのは、丁寧に指導してくださった館長さんや私たちの事を気にかけてくださった WFC の皆様のおかげです。学ばせていただいたことを活かして、これからも積極的に行動していきたいと思います。本当にありがとうございました。

スペイン語クラス

池田美穂

「Hola！（オラ）」の明るいかけ声とともに始まります。スペイン語クラスが 9 月よりスタートしました。初級と上級の 2 クラスがあります。初級クラスでは、まず基本的な日常の挨拶から習い、女性名詞・男性名詞・単数形・複数形など、スペイン語の基礎を繰返し学習しています。上級クラスでは、例えば、映画の一部を観てその内容について話す等、色々な会話を楽しんでいます。

私はスペイン語を習うのは全く初めてなので、大変ワクワクしました。シーニアさんは、ビギナーの私達にもとても優しく、楽しく、そしてテンポ良く教えて下さいます。ですからアッという間に 1 時間が過ぎてしまいます。スペイン語はその発音が日本語とよく似ているので比較的言い易いのですが、似過ぎていて、たまに笑いのツボにはまってしまうことも。。。とにかく楽しいので、毎週金曜日が待ち遠しくてたまりません。

今はまだごく簡単なフレーズしか話せませんが、2 年後には“スペイン語での平和公園ガイドデビュー！？？”なんて――夢だけはでっかく。
クラスの見学大歓迎です。皆さんもスパニッシュワールドを体験されませんか？

ペアセロベ

（ピース・クワイア、「ぺあせろべ」での出演）

渡辺朝香

毎年秋に開催される第 30 回ぺあせろべ（PEACE AND LOVE）2013WFC ピース・クワイアは館長リチャードのギター伴奏でステージに参加し、WFC ブースでは会員手作りのサータアンダギ（沖縄のドーナツ）祝島のびわ茶、折鶴再生紙のはがきなどを販売しました。

原田幸江さんのご好意で、身障者の皆さんの素敵な手作り作品も並んでオープン。ゲストに、在日朝鮮人で、ハンセン病元患者、林東植（イム・トンシク）さんを迎え、盲導犬ランブルと一緒に青空の下でお話会。

（林東植（イム・トンシク）さんと盲導犬ランブルを囲んで）

30 回目で幕を下ろす「ぺあせろべ」。元 WFC 館長ジニー・チャペル・キングスバリーより最後の「ぺあせろべ」にメッセージが寄せられました。受け取った岡田恵美子さんよりご紹介があり、英文を館長のシ−ニア、日本語翻訳を宮本慶子さんがステージで発表。ぺあせろべ実行委員長へ手渡されました。国際交流の集いとして不定期でしたが WFC も参加してきました。

1昨年の大雨の中での参加も、楽しい思い出です。

ジニーさんからの手紙

ジニー・チャペル・キンスバリー　（ワールド・フレンドシップ・センター元館長　1986－1990）

2013 年 9 月 26 日

「ぺあせろべ」実行委員会御中

私は、「ぺあせろべ」が今年が最後と聞き本当に残念に思います。30 年という年月は長いですが、でも、もっと続けて頂きたかったと思います。このイベントを若い方たちが引き受けてくださるところはないのでしょうか。同じことがここアメリカでも起こっています。今の若い人たちは、「平和」や「愛」にそこまで熱心ではないのです。「関心事」が変わってきているのです。

ワールド・フレンドシップ・センターが初めて「ぺあせろべ」を知ったのは確か 1986 年だったと思います。そして、私たちは、自分たちのブースを持ち、「ぺあせろべ」に参加することに心から喜びを感じました。私たちワールド・フレンドシップ・センターは、全員で折り鶴を折り、美味しい“ピースクッキー”を焼き、そして、平和関係の書籍をきれいに並べました。会場には、世界の様々な国から

の参加者があり、ダンスをしたり、歌ったり、ゲームなどをし、世界平和のために共に活動する大切さを学びました。

私と夫は 3 年間、「ぺあせろべ」に参加し、そこで、共に活動する喜びを感じ、アメリカへ帰国しました。2009 年にまた、広島に戻って来た時、「ぺあせろべ」のステージでワールド・フレンドシップ・センターのピース・クワイアが歌を歌うのを聞いたり、他の人たちのステージでのパーフォーマンスを見ました。特に、印象に残っているのは障害のある方たちのパーフォーマンスでした。平和に関連のないステージもありましたが、できれば、最後までずっと見ていたかったです。

「ぺあせろべ」のような催しは広島市にとって重要であったし、重要であると思います。いつの日か、未来の広島市民が、過去に「ぺあせろべ」というイベントを開催した広島市民がいたことを忘れないでいてほしいと願っています。世界は、「ノーモア・ヒロシマ」を心から願っています。

実行委員の方達一人一人に感謝申し上げます。このような素晴らしいイベントを毎年 30 年も続けてくださったことに心から拍手を送りたいと思います。そして、平和が永遠に続くことを心から祈っております。

訃 報

元 WFC 館長のマリアン（Mary Ann Albert）さんが、2013 年 11 月 27 日、脳卒中により享年75歳にて急逝され、12 月 2 日に葬儀がとり行われました。彼女は、1938 年にミシガン州で生まれ、インディアナ州の幼稚園で 27 年間勤務した後、1997 年から 1999 年までご主人のチャールズさんと共に WFC の館長を務められました。周りの皆を和ませてくれた彼女の優しい笑顔は、私たちの心にいつまでも残っています。誠に痛恨の極みです。

（WFC創立40周年に元館長一同に会す。Mary Ann は前列左から2番目）

故人のご冥福をお祈りし、謹んでお知らせ申し上げます。